

さて、新體制は眞體制であるといつた。たゞ、こゝに明瞭でなければならぬことは、その眞は「今」に即する眞生活でなければならぬことである。「今」をみつめて誤らざる眞でなければならぬことである。教育は徹頭徹尾國のためである。國の「今」に即する教育のみが、眞の教育である。

「今」は、さういふ教育をし、さういふことを目ざして教育しなければならぬのか。新體制下の教育は、その「今」の眞に即する教育である。幼児教育亦然り、幼稚園の經營亦然りである。

尙、申添へて置きたいことは、諸氏の寄稿は編輯部からの提出問題に對して與へられたもので、新體制下の幼稚園といふ全面的問題に對して全面的に答へられたものでないことである。若し、さういふ出題をしたら、各氏の選ばれる問題は別の點を先きにせられたかも知れない。又必ずや、こゝで言はれてゐること以外に廣くも深くも説き及ぼされることがあつたに相違ない。即ち、新體制下幼稚園といふ廣い問題に對して、こゝで言はれてゐる點だけに言を限られたことは、諸氏の責任ではない。勝手な方面をそれ／＼に割り當てた編輯部の責任である。この點、少しでも諸氏の御迷惑に

ならぬやう、私の懸念から念のため一言致して置きます。

保健方面の使命について

醫學博士 廣 瀨 興

新體制下に於ては、家庭生活全般に互つて自由主義的個人主義的考へ方を廢し、一層高度の國家社會主義的全體主義的考へ方が要求せらるゝであらう。従つて、家庭生活に關聯を持つ幼稚園に於ても當然この線に沿ふ保育が實施せられねばならない。尤も、幼稚園其他保育施設は在來の一般生活形態から云へば既にこの考へ方を多分に抱合して居つたのであるが新體制下に於てはこの點、今、一層、精神的にも組織的にも強調の必要を認めるのである。

保健的方面からは一個人の幸福さといふ觀點より以上に國民の健康増進、體位の向上を圖り、將來の民族素質の優勢を望むならば青少年期或は成人期の對策は既に手遅れであつて、如何しても、乳幼児期の對策が絶對的に必要である。體質の強弱素質さ云ふことが人間一生の健康生活に極めて重大なる關係にあることは今更、贅言を要しないのであつて、極端に云へば、乳幼児期に正しい保健的生活を過

ごせばその人は一生、目星しい疾病に患らず、よし患つても簡単に治癒し、引いては將來に素質の優良なる子孫を残すこととなるのである。新體制下に於てはかゝる素質の子供を要求するのである。斯く考へるべきは幼稚園に於ける保健的役割は一層重大なる。

然らば、新體制下、幼稚園に於て保健保育は如何にすべきかといふ問題になるが、元來、我國民保健上、直接間接重要な影響を及してゐるのは、榮養問題、結核問題、性病問題、寄生蟲問題の四つである。而して、家庭に於てこの問題に對し、正しい知識を有せしめることが先決問題であつて、それは誰れが何處で爲すべきか云へば現在の我國家庭生活の現状に於ては幼稚園其他の保育施設が最も適當である。母の會或は保護者會を通じて行れる時は極めて有効的である。

更にこの四つの問題解決の基礎的要件として、(一)日光、(二)空氣、(三)水、(四)氣象的影響(溫度、濕度、氣動)等の環境を衛生的ならしめ、(五)正しい榮養の知識を與へ、更に、(六)傳染病(小兒傳染病、結核、性病、寄生蟲病等)の家庭的豫防を徹底せしめる方途を指導することである。其の目的を達するためには保護者會に對し之等の正しい知識を注入すること、幼稚園に於て實行する之等要件に對する健康保育實施に協力を求めることが肝要であ

る。

日光浴、薄着勵行、寢衣着換、睡眠時間の適正、入浴、手洗、爪切り、散髪、耳垢取り、正しい姿勢、視力障得防止、共同給食等各種の健康教育を組織的に實行すること。同時に、年四回の定期健康検査の他に全園兒の結核に對する精密検査(マンツウ氏反應、レントゲン検査、赤血球沈降速度測定)、性病に對し血液検査、井出氏反應、寄生蟲のため検査、トラホーム検査は是非實施せられねばならぬ。又、チフテリア、百日咳、麻疹、疫痢等小兒傳染病の豫防處置を構すること。園兒の畫食は必ず母親の参加を求めること等が實行されべきである。

斯くするときは、園兒自身の現在將來の健康問題は勿論、母親の一般保健の教養を高め、更に其の母親の屬する隣組の保健知識の向上を期待することが出来る。即ち、將來、隣組組織が活動する時機に於て、少くも子供の問題に關しては其の指導的機關として重要な役割を持つべきものが、新體制下に於ける幼稚園其他の保育施設である。このことは勿論、保健問題のみならず、教養方面にも云ひ得るのであるが、我國の如き、消極的治療醫學的施設のみ發達せる現状に於ては一層、重要な問題であつて、將來の幼稚園の責任たるや重且つ大である。